

平成 29 年度 登別市立図書館 自己点検・評価

1. 平成 29 年度登別市立図書館 運営方針・重点目標と施策 1
各施策についての内部評価 (PDCA 法)
2. 参考資料 評価指標「貸出密度上位の公立図書館」と登別市立図書館の現在地 . . . 6

図書館の設置及び運営上の望ましい基準（平成 24 年 12 月 19 日施行）

1. 管理運営

（一）基本的運営方針及び事業計画

1 市町村立図書館は、その設置の目的を踏まえ、社会の変化や地域の実情に応じ、当該図書館の事業の実施等に関する基本的な運営の方針（以下「基本的運営方針」という。）を策定し、公表するよう努めるものとする。

2 市町村立図書館は、基本的運営方針を踏まえ、図書館サービスその他図書館の運営に関する適切な指標を選定し、これらに係る目標を設定するとともに、事業年度ごとに、当該事業年度の事業計画を策定し、公表するよう努めるものとする。

3 市町村立図書館は、基本的運営方針並びに前項の指標、目標及び事業計画の策定に当たっては、利用者及び住民の要望並びに社会の要請に十分留意するものとする。

（二）運営の状況に関する点検及び評価等

1 市町村立図書館は、基本的運営方針に基づいた運営がなされることを確保し、その事業の水準の向上を図るため、各年度の図書館サービスその他図書館の運営の状況について、（一）の 2 の目標及び事業計画の達成状況等に関し自ら点検及び評価を行うよう努めなければならない。

2 市町村立図書館は、前項の点検及び評価のほか、当該図書館の運営体制の整備の状況に応じ、図書館協議会（法第十四条第一項に規定する図書館協議会をいう。以下同じ。）の活用その他の方法により、学校教育又は社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、図書館の事業に関して学識経験のある者、図書館の利用者、住民その他の関係者・第三者による評価を行うよう努めるものとする。

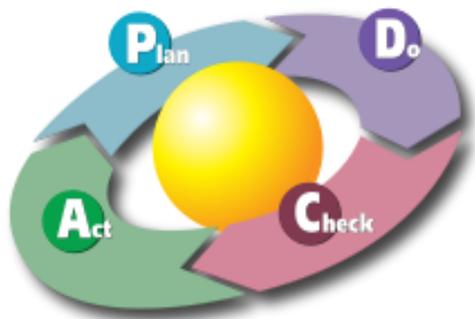
3 市町村立図書館は、前二項の点検及び評価の結果に基づき、当該図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

4 市町村立図書館は、第一項及び第二項の点検及び評価の結果並びに前項の措置の内容について、インターネットその他の高度情報通信ネットワーク（以下「インターネット等」という。）をはじめとした多様な媒体を活用すること等により、積極的に公表するよう努めなければならない。

PDCA サイクル（PDCA cycle、plan-do-check-act cycle）

事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つ。

Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の 4 段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善する。



1.平成29年度登別市立図書館 運営方針・重点目標と施策

各施策についての内部評価（PDCA法）

1. 運営方針

地域にしっかりと根をはり、市民ひとりひとりの自己実現を助ける図書館へ

- 「地域を支える情報拠点」としての図書館の役割を認識し、「地域の社会関係資本」「教育的資源」としての機能を積極的に果たす。
- 図書館の目的である「教養・調査研究・レクリエーション」（図書館法第2条）の3つについて、偏ることなく全般的・網羅的な充実を図る。
- 図書館が長期にわたって利用されるには、「空間（施設）・人（職員）・資料」の3要素の充実が必須である。
- レファレンスサービス・リクエスト対応など図書館サービスの基本を忠実に実行する。
- 地域社会と市民の多様なニーズに応え、多様な資料の収集・提供・保存に努める。
- 子どもからお年寄りまで、だれもが利用しやすいよう施設・設備の改善を図る。
- 市内のどの地域に住む人も図書館が利用できるよう、市内全域サービスの強化を図る。
- 市民が気持ちよく利用できる居心地の良い場となるよう、一層のサービス向上に努める。
- 市民が読書に親しむ環境づくりを推進するため、各種事業を持続的に展開する。
- 各種事業等を通じ、市民の図書館に対する認知度を高めることにより、市民の側が図書館に能動的に係われる環境を構築する。
- 図書館と市民の関係を双方性なものになるよう努め、市民の「善意」を図書館活動に提供してもらえよう、地域に根ざした図書館への成長を図る。
- 知識や技術・経験を有する市民に、講座や展示などの「出番」を提供する。
- すべての市民に「居場所」を提供する。
- ボランティア団体との連携を深め、彼らの能力と意欲を積極的に取り込み、図書館の活性化を図る。
- コンピュータが苦手な情報弱者への、情報リテラシー（情報活用能力）の支援に取り組む。
- 市民が日々の暮らしのなかで、図書館がもっと身近なものになるよう、図書館の魅力や有用性を周知する利用教育と啓発普及に努める。

2.重点目標と施策

各施策についての内部評価 (PDCA 法)

評価ランク	評価基準
A	目標を達成した。
B	おおむね達成した。
C	達成に向けて一部課題がある。
D	達成には克服すべき困難な課題がある。

※ 4段階の評価基準は、「登別市教育委員会点検・評価報告書」に準じた。

(1) 施設

○全域サービス

重点目標	市内のすべての地域を網羅した全域サービスをより一層強化し、サービス向上ため配本所機能の強化を図る。
------	---

施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
移動図書館車「こぐま号」の車両更新を行う。	日本工学院作成による図案の選定とラッピング及び室蘭信用金庫との関連事業を実施する。	A	3月より新車両で運行開始。2つのコンテストを実施、作品展・表彰式・寄贈式等を開催した。
施設・設備の老朽化を点検し改善に努める。	2階・3階のトイレ改修・洋式化。	A	7月の蔵書点検期間中に洋式化工事を実施した。これにより館内の全てのトイレが洋式になった。
	窓のブラインド交換。	A	2箇所破損ブラインドを交換した。来年度以降も予算要求し継続して改善に努める。

(2) 資料

○資料蔵書の適正化

重点目標	市民の多様なニーズに応える多様な資料の収集と整備を行うとともに、適正な蔵書数による魅力ある書架を創造する。
------	---

施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
書架の飽和状態の解消のため資料の	図書 2469 冊を除籍した。(受入図書 5328 冊)	B	蔵書の飽和状態を解消し、魅力ある書架を構築す

除籍を進める。また除籍資料の有効活用を図る。			ることは、登別図書館の最重要課題である。 H30年度も継続して取り組む必要がある。
2階書庫及び幌別西小学校閉架書庫の除籍と整理を行う。	本館2階書庫の本を整理した。西小学校の書庫の除籍を進めた。	B	引き続き西小学校書庫の除籍と整理に取り組み課題を解決する必要がある。
幌別西小学校校舎改修にともなう書庫閉鎖について、今後の代替場所を検討する。	代替場所を調査・打診したが、好適地が無くまだ見つかっていない。	C	引き継ぎ、代替場所を検討する。
逐次刊行物の管理と2F書架の運用開始。	2階に逐次刊行物書架を設置した。	A	今後は増設分のリストをホームページに掲載する。
2階閉架庫の分類表示の作成（探しやすく分かりやすい書架づくり）	蔵書点検期間に分類表示を作成し掲示した。	A	引き続き表示の充実を図る。
郷土資料の整理・郷土資料室の整理	蔵書点検期間中に郷土資料室の整理、道内各市史の書架を大幅な整理を行った。	A	
寄贈資料(DVD含む)の登録の迅速化と目録の質向上	DVDの目録マニュアルを作成した。	B	寄贈資料の量が多く、引き続き登録の迅速化に努める。

(3) サービス

① レファレンス

重点目標	地域や住民が抱える問題の解決を支援するため、レファレンスサービスの充実を図り、利用促進のための周知に努める。
------	--

施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
オンラインデータベースや国立国会図書館デジタル化資料送信サービスの利用講座を開催し、市民への周知と利用の促進に努める。	「登別ときめき大学」の関連事業として、H29年度もオンラインデータベース講習会を実施した。	A	今後もデータベース講習会を継続して実施するほか、ポスターや利用案内を掲示し、データベースの周知と利用の促進に努める。

② 事業・展示・広報

重点目標	図書館への関心や興味を高めるとともに、市民が本に親しむ環境づくりに寄与することを目的として各種事業や展示を継続的に展開する。
------	--

施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
ライブラリースタート事業について、配布率の向上に努める。	配布率向上のため、H29年度は、こぐま号・分館・驚別配本所でも受け付けるよう手法の改善を行った。H29年度配布率は40.5%に向上した。	B	配布率向上と事業効果の改善のため、H30年度は毎月「おはなし会」を関連して実施する。
「図書館通信」の内容の充実・刷新	8月号から内容を一新した。12頁に大幅に増項し、配布箇所も見直した。	A	
「じどうしつだより」の配布先及び内容の見直し。	従来市内小学校全生徒に配布していたが、学級単位に見直し「図書館通信」に紙量を充てた。	A	

③ 2つの計画の策定

施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
「第3次登別市子ども読書活動推進計画」を策定する。	当初の予定通り策定した。	A	
運営ビジョン「登別市立図書館のめざすもの」を策定する。	当初の予定通り策定した。また初めて「市民懇談会」を開催した。	A	

④ 情報リテラシーサービス

重点目標		現在の図書館は検索などコンピュータの使用が不可欠であるが、高齢者などコンピュータを苦手とする利用者は多い。図書館員が利用者の資料探しの手伝いをするのは勿論だが、あわせて「利用者が自立した情報利用者となることを支援するサービス」を行う。	
施策 Plan	取組 Do	評価 Check	改善 Act
図書館の活用講座をシリーズで開設・実施する。	シリーズ講座「図書館への招待」を実施した。詳細は「図書館要覧」参照。	A	今後も図書館講座を実施する。

【参考資料】

評価指標「貸出密度上位の公立図書館」と登別市立図書館の現在地

評価指標 出典	目標基準例	登別市立 図書館 H29 年度 (H30.3.31) *2	達成率	備考
	「貸出密度上位 の公立図書館 整備状況・ 2017」について *1			
人口	4～5 万人			
人口	45,590	48,519	106.4%	
図書館数	1.5	2	117.6%	独立・専従。
専有延床面積(m ²)	3,257	1,285	39.4%	本館とアーニス分館の合計。
自動車図書館数(台)	0.0	1	-	
専任職員数	3.2	4	125%	清掃・警備・施設管理を除く。
うち司書	2.2	1	45%	
司書率	68.8	25	46.5%	
非常勤・臨時職員数	12.1	12	99.2%	
うち司書	8.6	4	46.5%	
委託・派遣職員	4.1	0	0.0%	
うち司書	3.3	0	0.0%	
蔵書冊数	242,959	153,493	63.2%	雑誌・視聴覚を含めず。
図書年間購入冊数	8,128	4,781	58.8%	
雑誌年間購入種数	142	55	38.7%	総種。寄贈含めず。
新聞年間購入種数	13	7	53.8%	総種。寄贈含めず。
登録者数	33,747	24,794	73.5%	個人登録者のみ。
貸出点数	420,590	203,612	48.4%	個人貸出のみ。
人口当貸出点数	9.2	4.2	4565%	
予約件数	18,690	23,730	127%	全合計。「個人」と明記なし。
図書館費(経常費・千円)	65,116	45,103	69.2%	登別市立図書館は H28 年度 当初予算額。
資料費(千円)	16,251	9,085	55.9%	
うち図書費	13,188	8,058	61.1%	
うち新聞雑誌費	2,093	1,027	49.1%	
うち視聴覚費	954	0	0.0%	
人口当資料費(円)	358	187	52.2%	

*1 出典は「図書館雑誌」(日本図書館協会発行)2018 年 5 月号、P328-329 より抜粋。

「数値は『日本の図書館-名簿と統計 2017-』による」(同資料の注記2より)。日本図書館協会事務局作成。

*2 「図書館要覧 2018」(登別市立図書館発行)から抜粋。職員数は平成 29 年度のもの。